

# 全国中小企業動向調査結果

(2016年4-6月期実績、7-9月期以降見通し)

## 小企業の景況

(原則従業員20人未満)

### 小企業の景況は、足踏みが続いている

(前回)持ち直しの動きに足踏みがみられる

- 業況判断DIは、2期連続でマイナス幅が拡大し、▲33.8となった。  
来期はマイナス幅が拡大する見通し。 ← 5ページ
- 売上DIは、2期連続でマイナス幅が拡大し、▲29.3となった。  
来期はマイナス幅が拡大する見通し。 ← 10ページ
- 採算DIは、マイナス幅が縮小し、▲16.8となった。  
来期はマイナス幅が拡大する見通し。 ← 11ページ

#### ■ 主要DI(カッコ内は前回調査からの変動幅)

業況判断DI	売上DI	採算DI	資金繰りDI	借入DI
▲33.8(-2.9)	▲29.3(-4.9)	▲16.8(+0.5)	▲21.7(+2.7)	▲6.5(-1.9)

## 中小企業の景況

(原則従業員20人以上)

### 中小企業の景況は、緩やかな回復基調のなか、弱い動きがみられる

(前回)弱い動きはみられるものの、緩やかに回復している

- 業況判断DIは、マイナス幅が拡大し、▲4.9となった。低下は3期連続。  
来期以降はマイナス幅が縮小する見通し。 ← 17ページ
- 売上DIは、3期連続で低下し、▲3.1となった。  
来期以降は上昇する見通し。 ← 20ページ
- 純益率DIは、マイナス幅が拡大し、▲2.5となった。低下は2期連続。  
来期はマイナス幅が拡大、来々期は縮小する見通し。 ← 21ページ

業況判断DI	売上DI	純益率DI	資金繰りDI	長期借入難易DI
▲4.9(-3.2)	▲3.1(-4.6)	▲2.5(-0.1)	5.7(+0.1)	16.0(-1.6)

#### <お問い合わせ先>

日本政策金融公庫 総合研究所 小企業研究第二グループ Tel:03-3270-1691(担当:桑本、藤井)  
中小企業研究第一グループ Tel:03-3270-1703(担当:山口、神谷)  
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-9-4 大手町フィナンシャルシティ ノースタワー

目次

調査結果の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

【小企業編】

概況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3  
調査の実施要領・・・・・・・・・・・・ 4  
業況判断・・・・・・・・・・・・・・・・ 5  
売上・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10  
採算・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11  
資金繰り、借入・・・・・・・・・・・・ 12  
経営上の問題点・・・・・・・・・・・・ 13  
設備投資、価格動向・・・・・・・・・・ 14

【中小企業編】

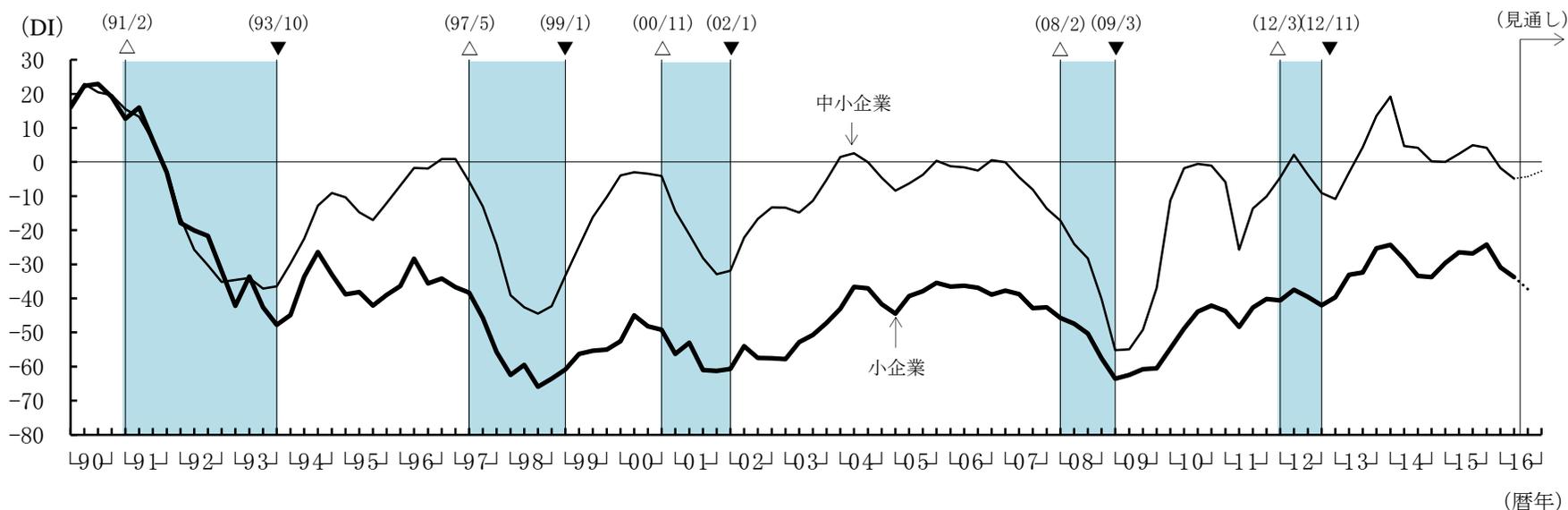
概況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15  
調査の実施要領・・・・・・・・・・・・ 16  
業況判断・・・・・・・・・・・・・・・・ 17  
売上・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20  
利益・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21  
価格、金融関連・・・・・・・・・・・・ 22  
雇用、設備・・・・・・・・・・・・・・ 23  
経営上の問題点・・・・・・・・・・・・ 24

# 調査結果の概要

## 1 業況判断DIの推移

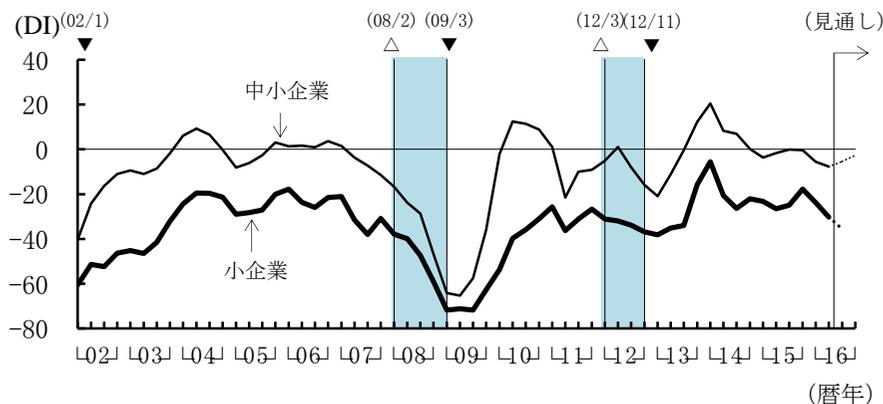
### ①全業種計

	14.4-6	14.7-9	14.10-12	15.1-3	15.4-6	15.7-9	15.10-12	16.1-3	16.4-6	16.7-9	16.10-12
中小企業	4.7	4.2	0.2	0.0	2.4	4.9	4.2	▲1.7	▲4.9	見通し	見通し
小企業	▲28.5	▲33.4	▲33.8	▲29.6	▲26.5	▲26.8	▲24.2	▲30.9	▲33.8	▲37.3	-



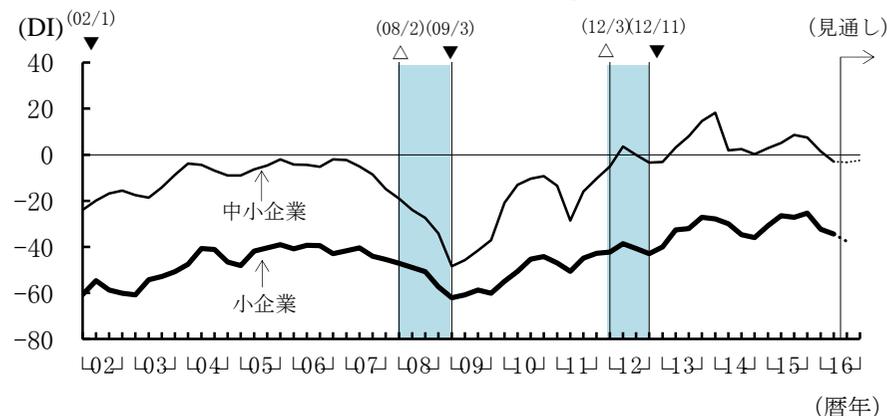
### ②製造業

	15.10-12	16.1-3	16.4-6	16.7-9	16.10-12
中小企業	▲0.4	▲5.5	▲7.7	▲5.4	▲2.7
小企業	▲17.7	▲23.8	▲30.2	▲35.6	-



### ③非製造業

	15.10-12	16.1-3	16.4-6	16.7-9	16.10-12
中小企業	7.5	1.5	▲2.9	▲3.3	▲2.5
小企業	▲25.4	▲32.3	▲34.4	▲37.6	-

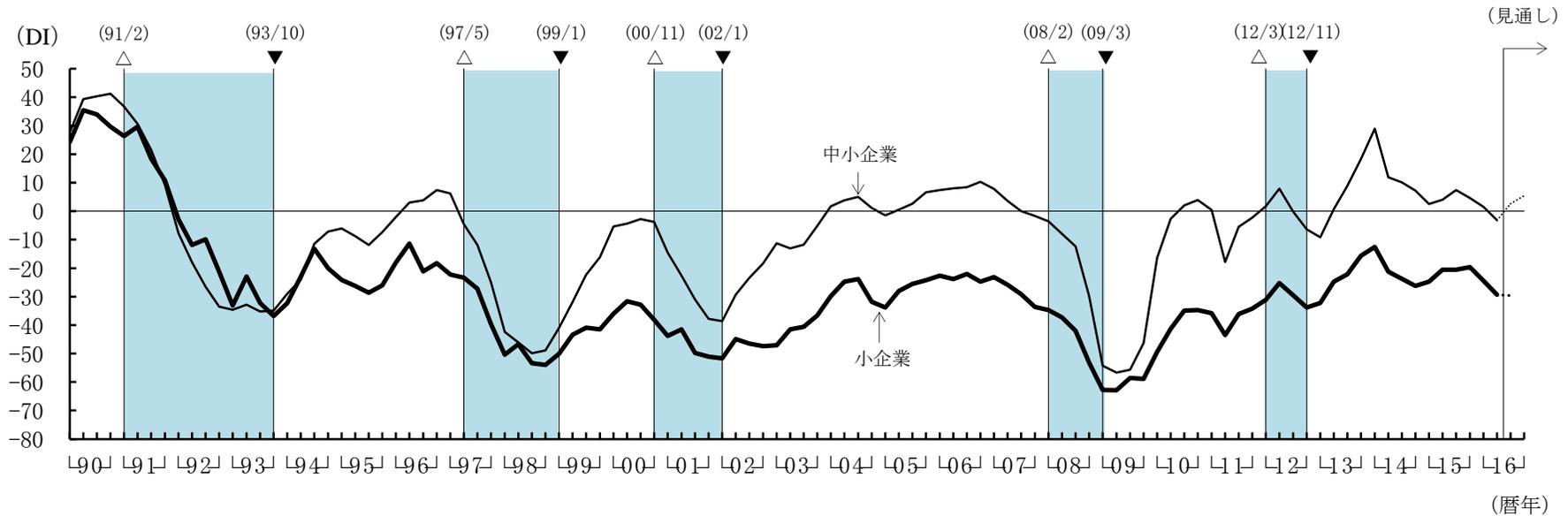


- (注) 1 小企業のDIは、調査対象企業の業況が「良い」と回答した企業割合から「悪い」と回答した企業割合を差し引いた値。  
 2 中小企業のDIは、調査対象企業の業況が前年同期比で「好転」と回答した企業割合から「悪化」と回答した企業割合を差し引いた値(季節調整済)。  
 3 ▲は景気の山、▼は景気の谷、シャド一部分は景気後退期を示す(以下同じ)。

## 2 売上DIの推移

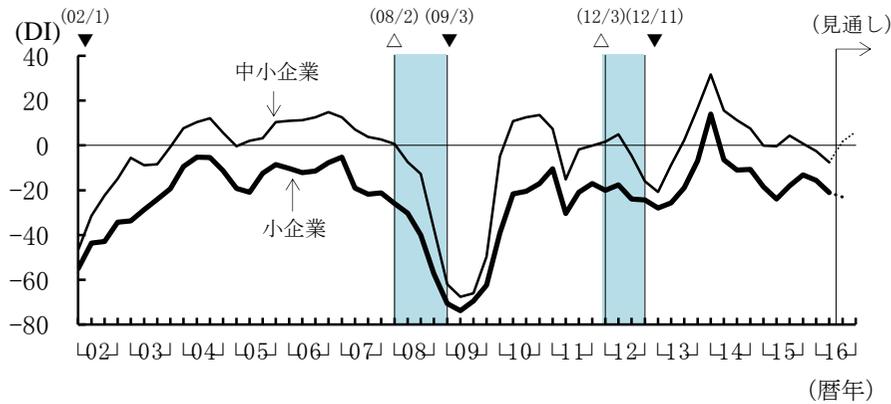
### ①全業種計

	14.4-6	14.7-9	14.10-12	15.1-3	15.4-6	15.7-9	15.10-12	16.1-3	16.4-6	16.7-9	16.10-12
中小企業	11.9	10.1	7.2	2.5	4.0	7.4	4.6	1.5	▲ 3.1	見通し	見通し
小企業	▲ 21.3	▲ 23.8	▲ 26.2	▲ 24.7	▲ 20.5	▲ 20.5	▲ 19.6	▲ 24.4	▲ 29.3	▲ 29.6	-



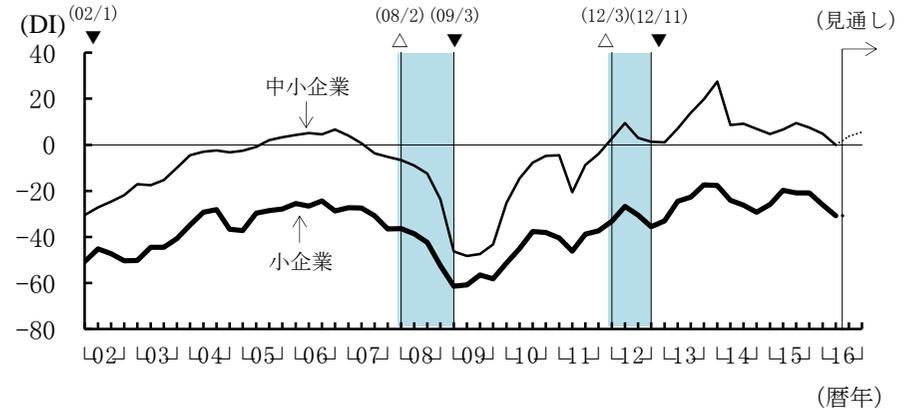
### ②製造業

	15.10-12	16.1-3	16.1-3	16.7-9	16.10-12
中小企業	0.8	▲ 2.6	▲ 7.5	見通し	見通し
小企業	▲ 13.1	▲ 15.6	▲ 21.1	▲ 23.1	-



### ③非製造業

	15.10-12	16.1-3	16.4-6	16.7-9	16.10-12
中小企業	7.4	4.8	▲ 0.1	見通し	見通し
小企業	▲ 20.9	▲ 26.0	▲ 30.9	▲ 30.9	-



- (注) 1 小企業のDIは、前年同期比で「増加」と回答した企業割合から「減少」と回答した企業割合を差し引いた値。  
 2 中小企業のDIは、前年同期比で「増加」と回答した企業割合から「減少」と回答した企業割合を差し引いた値 (季節調整済)。

# 小 企 業 編

(2016年4－6月期実績、7－9月期見通し)

## 小企業の景況は、足踏みが続いている

### [概況]

- ・業況判断DIは、前回調査（2016年1-3月期）に比べてマイナス幅が2.9ポイント拡大し、▲33.8となった。来期は、マイナス幅が拡大する見通しとなっている。
- ・業種別にみると、製造業（▲30.2）、非製造業（▲34.4）ともに、2期連続でマイナス幅が拡大した。来期は、製造業、非製造業ともに、マイナス幅が拡大する見通しとなっている。
- ・売上DIは、マイナス幅が拡大した。来期は、マイナス幅が拡大する見通しとなっている。
- ・採算DIは、マイナス幅が縮小した。来期は、マイナス幅が拡大する見通しとなっている。

## [調査の実施要領]

調 査 時 点	2016年6月中旬
調 査 対 象	当公庫取引先 10,000 企業 (ただし、熊本県の117企業については調査を実施していない)
有 効 回 答 数	6,607 企業 [回答率 66.9 %]

### < 業 種 構 成 >

		調 査 対 象	有 効 回 答 数	
製 造 業	(従業員20人未満)	1,500 企業	1,058 企業	( 構 成 比 16.0 % )
卸 売 業	( 同 10人未満)	800 企業	576 企業	( 同 8.7 % )
小 売 業	( 同 10人未満)	2,450 企業	1,610 企業	( 同 24.4 % )
飲食店・宿泊業	( 同 10人未満)	1,800 企業	1,080 企業	( 同 16.3 % )
サ ー ビ ス 業	( 同 20人未満)	2,000 企業	1,319 企業	( 同 20.0 % )
情 報 通 信 業	( 同 20人未満)	160 企業	86 企業	( 同 1.3 % )
建 設 業	( 同 20人未満)	1,100 企業	741 企業	( 同 11.2 % )
運 輸 業	( 同 20人未満)	190 企業	137 企業	( 同 2.1 % )

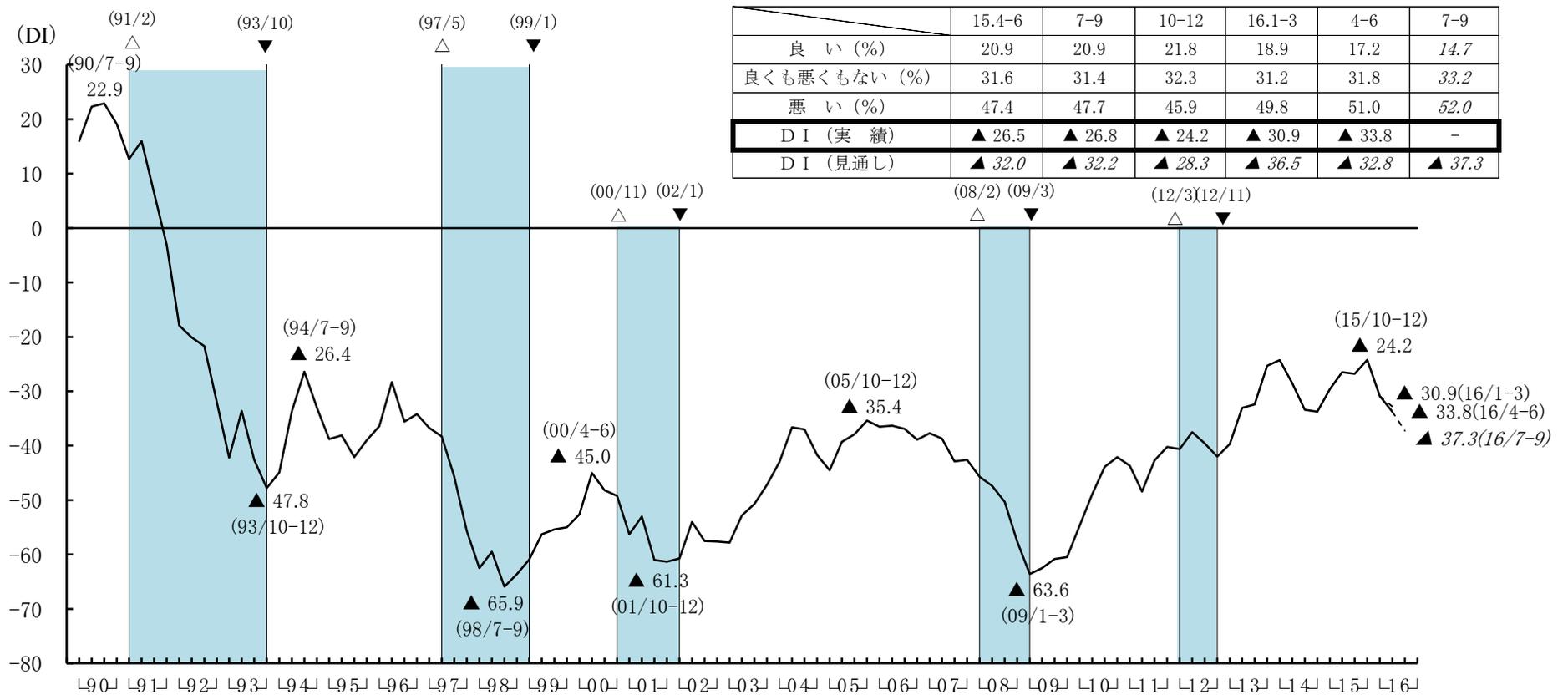
(参 考)

法 人	4,318 企業	( 構 成 比 65.4 % )
個 人	2,289 企業	( 同 34.6 % )

# 1 業況判断

- 今期の業況判断DI（全業種計）は、前回調査（2016年1-3月期）に比べてマイナス幅が2.9ポイント拡大し、▲33.8となった。来期は、マイナス幅がさらに拡大し、▲37.3となる見通しである。
- 業種別にみると、製造業（▲30.2）、非製造業（▲34.4）ともに、2期連続でマイナス幅が拡大した。非製造業を構成する大分類業種のうち、卸売業とサービス業を除く全ての業種でマイナス幅が拡大した。来期も、製造業、非製造業ともに、マイナス幅が拡大する見通しとなっている。
- 地域別にみると、北海道、東北、北陸を除く全ての地域でマイナス幅が拡大した。来期は、北海道を除く全ての地域でマイナス幅が拡大する見通しとなっている。

図－1 業況判断DIの推移（全業種計）

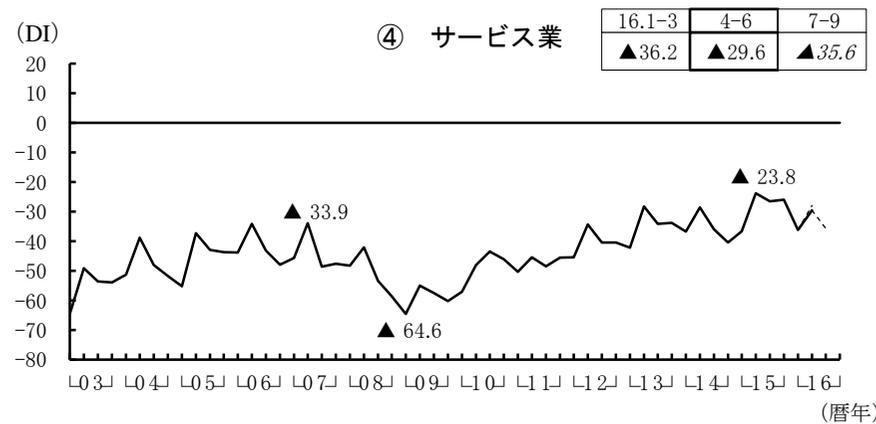
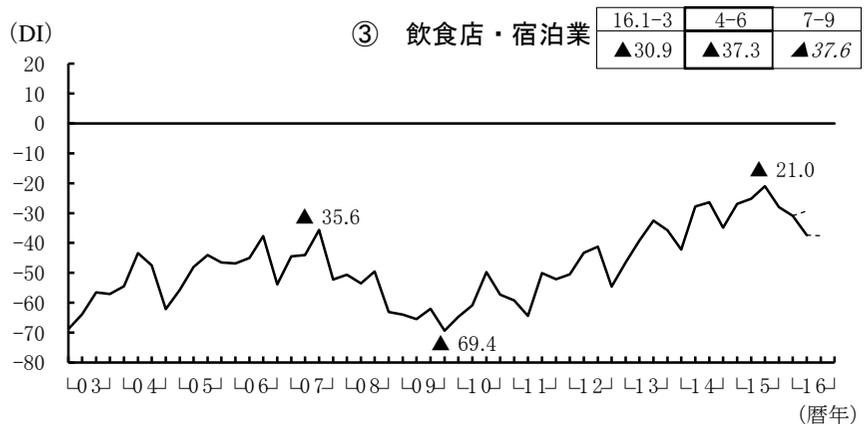
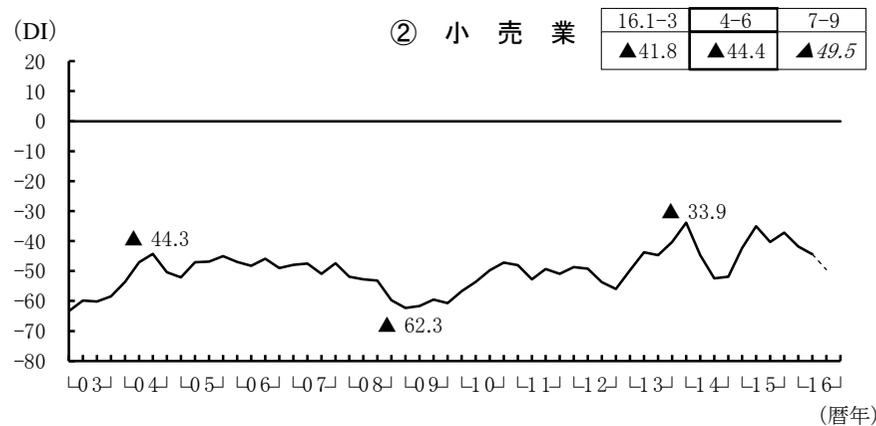
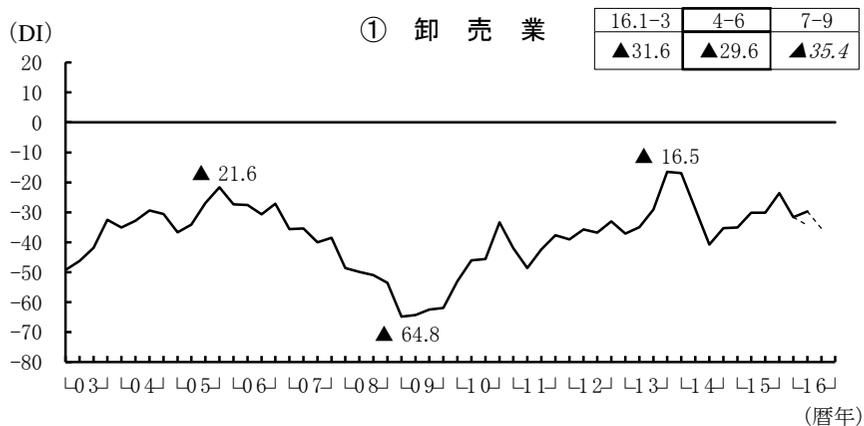
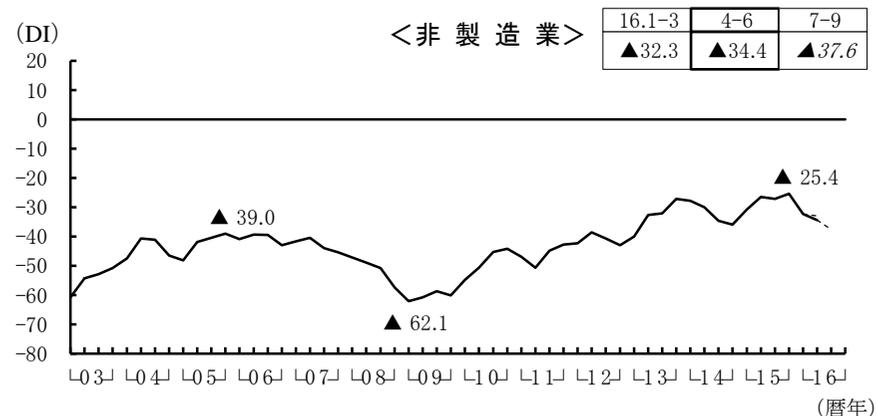
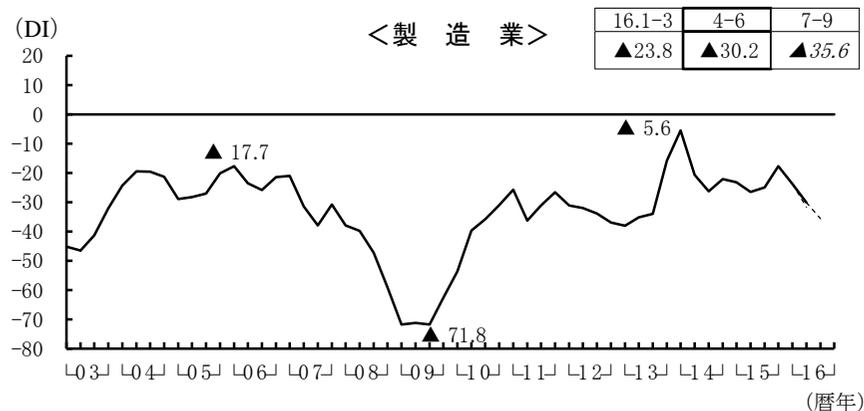


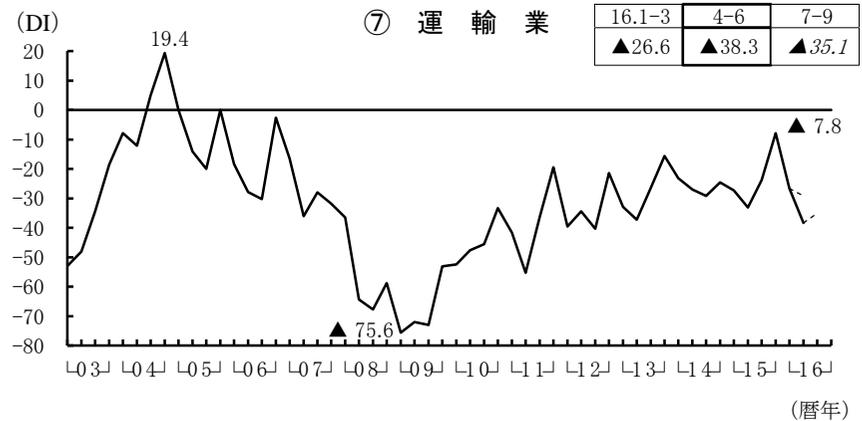
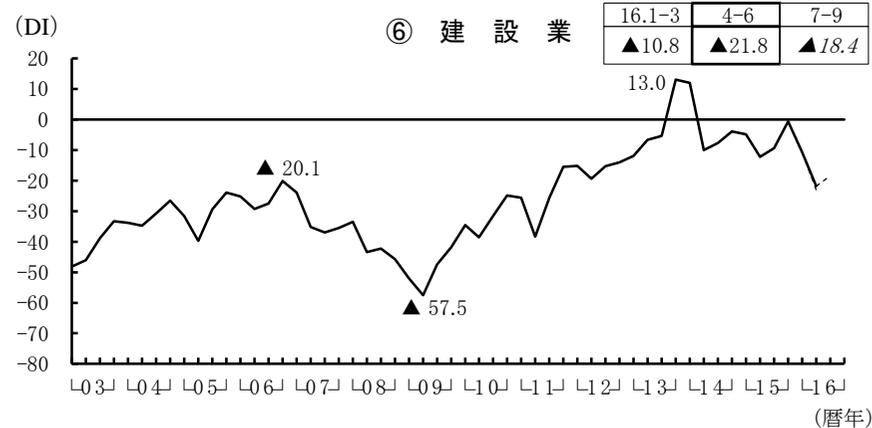
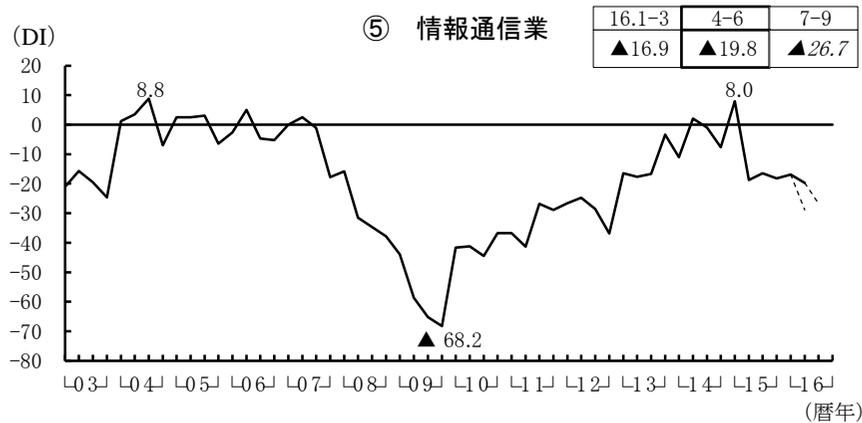
(注) 1 DIは、調査対象企業の業況が「良い」と回答した企業割合から「悪い」と回答した企業割合を差し引いた値。

2 ——— は実績、----- は見通し。斜体は見通しの値を示している。

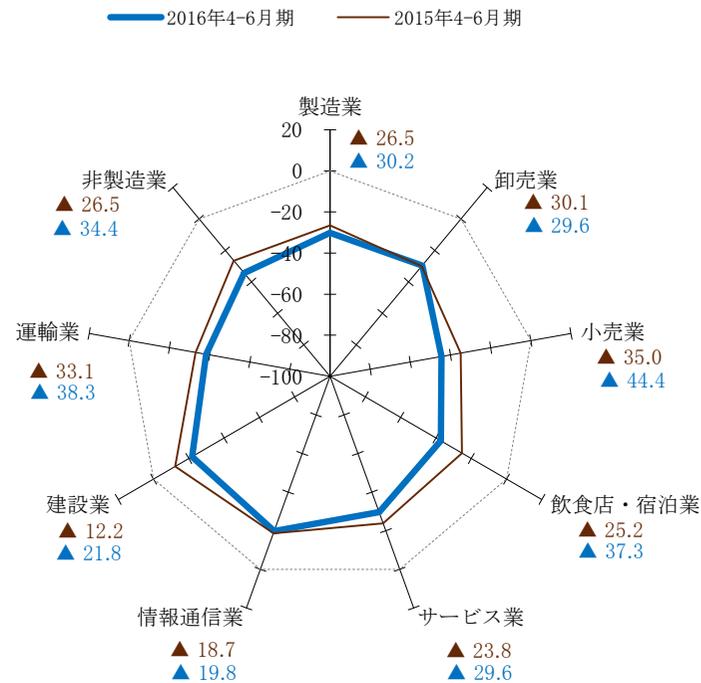
(暦年)

図－２ 業種別業況判断DIの推移

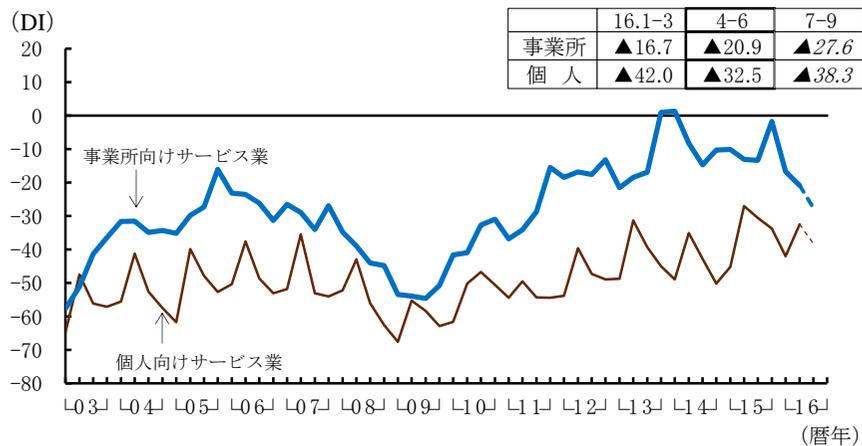




(参考2) 1年前 (2015年4-6月期) の水準との比較

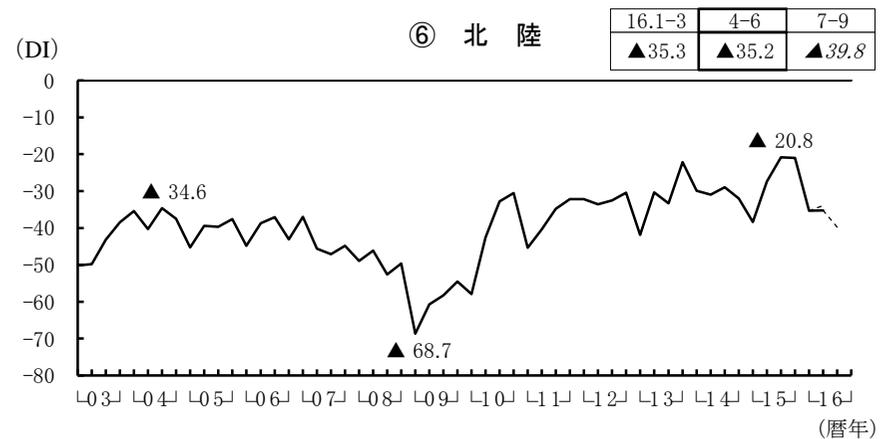
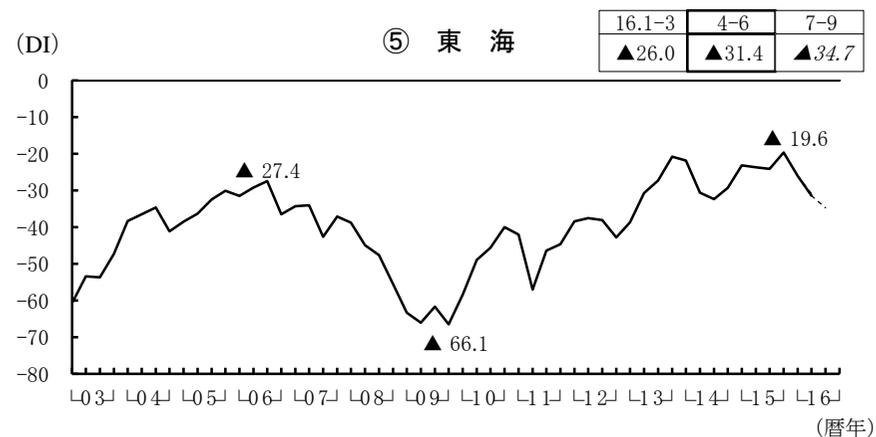
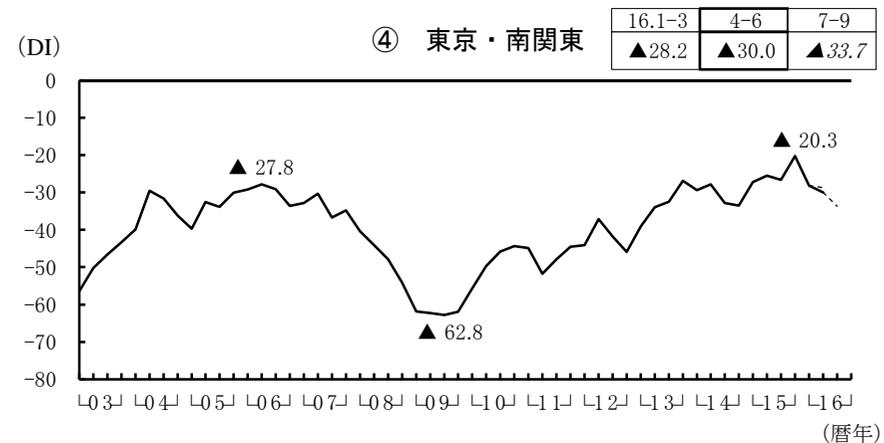
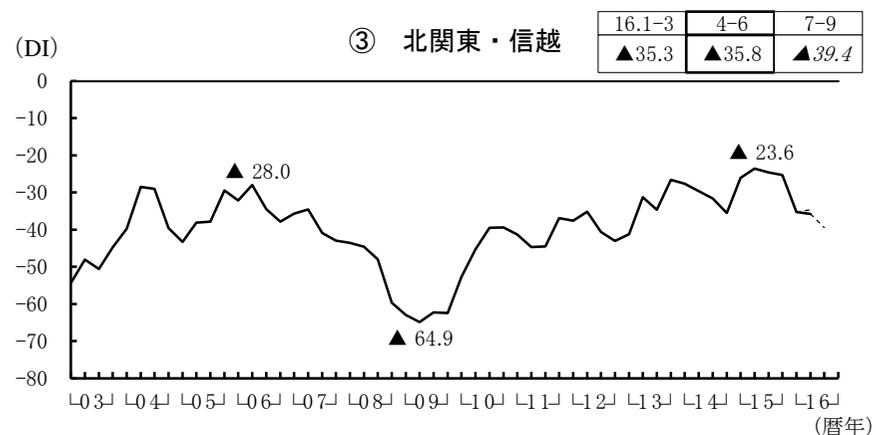
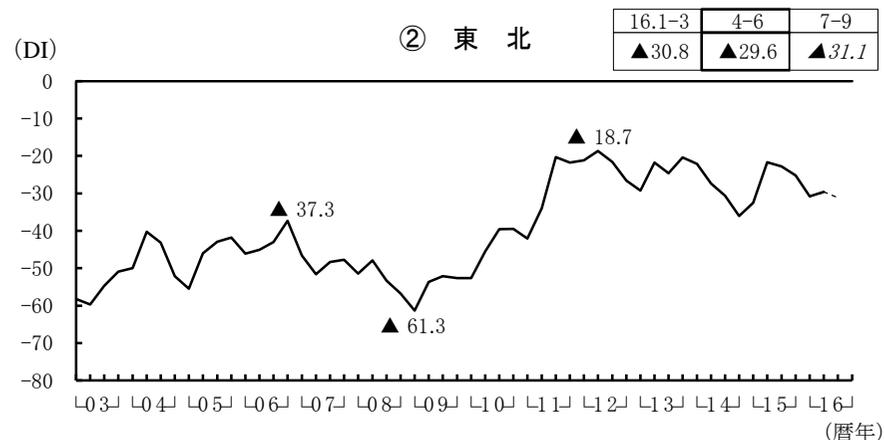
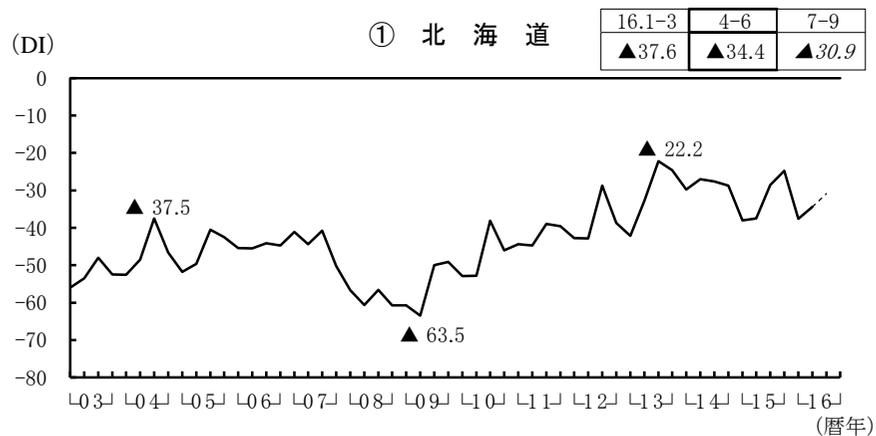


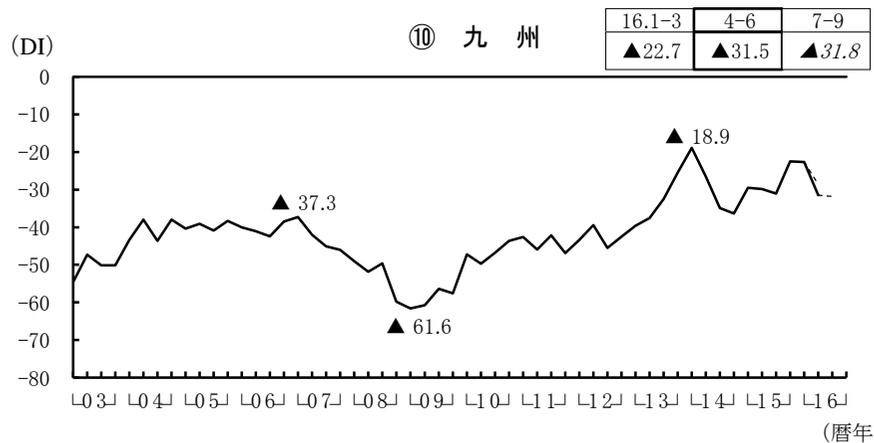
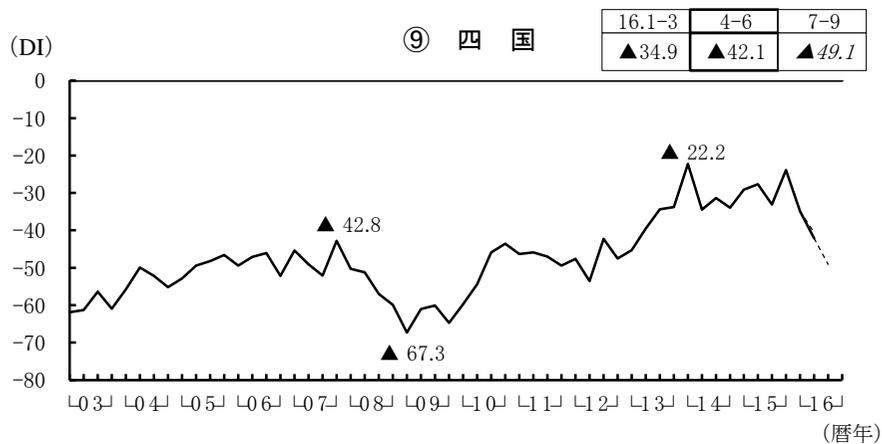
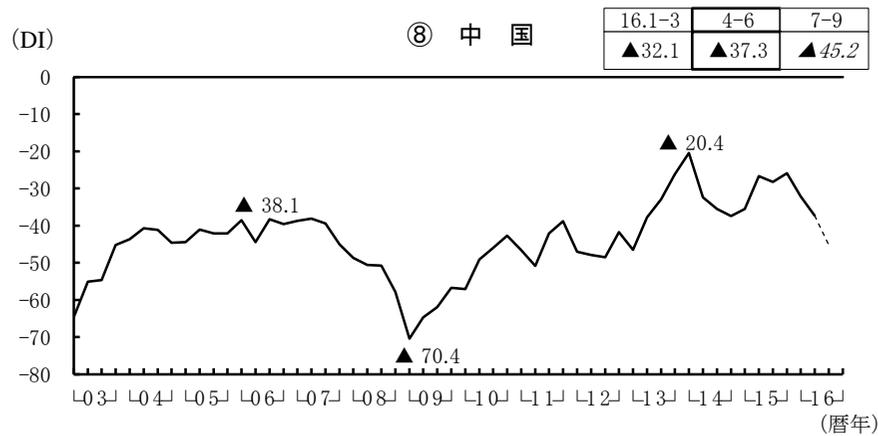
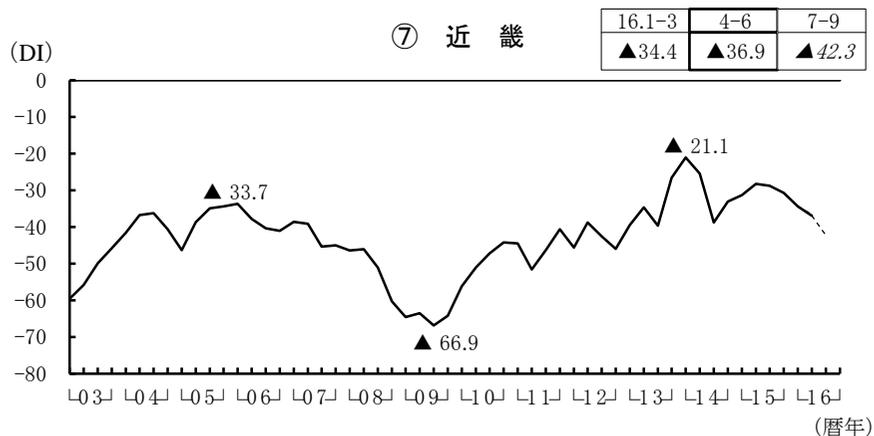
(参考1) 個人向けサービス業と事業所向けサービス業の業況判断DIの推移



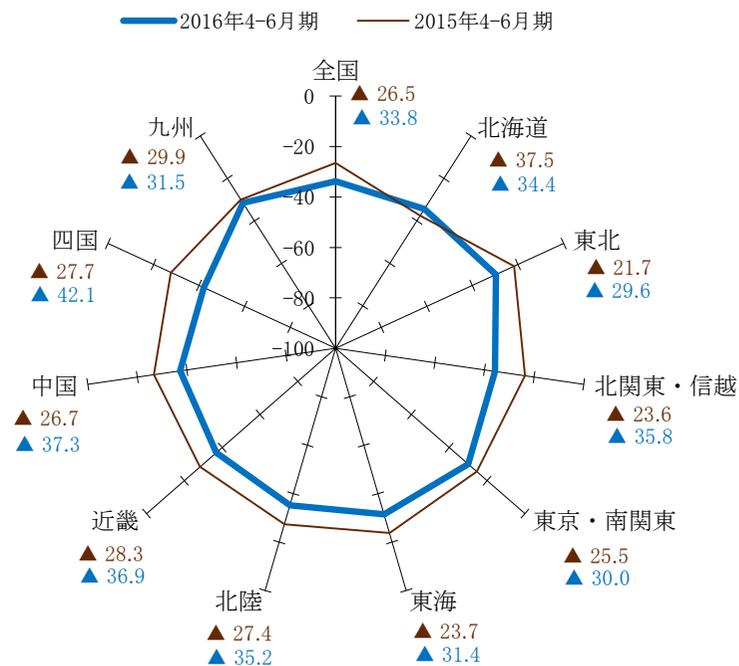
(注) 各業種の値は、上段が1年前、下段が今期を示している。

図-3 地域別業況判断DIの推移





(参考) 1年前 (2015年4-6月期) の水準との比較

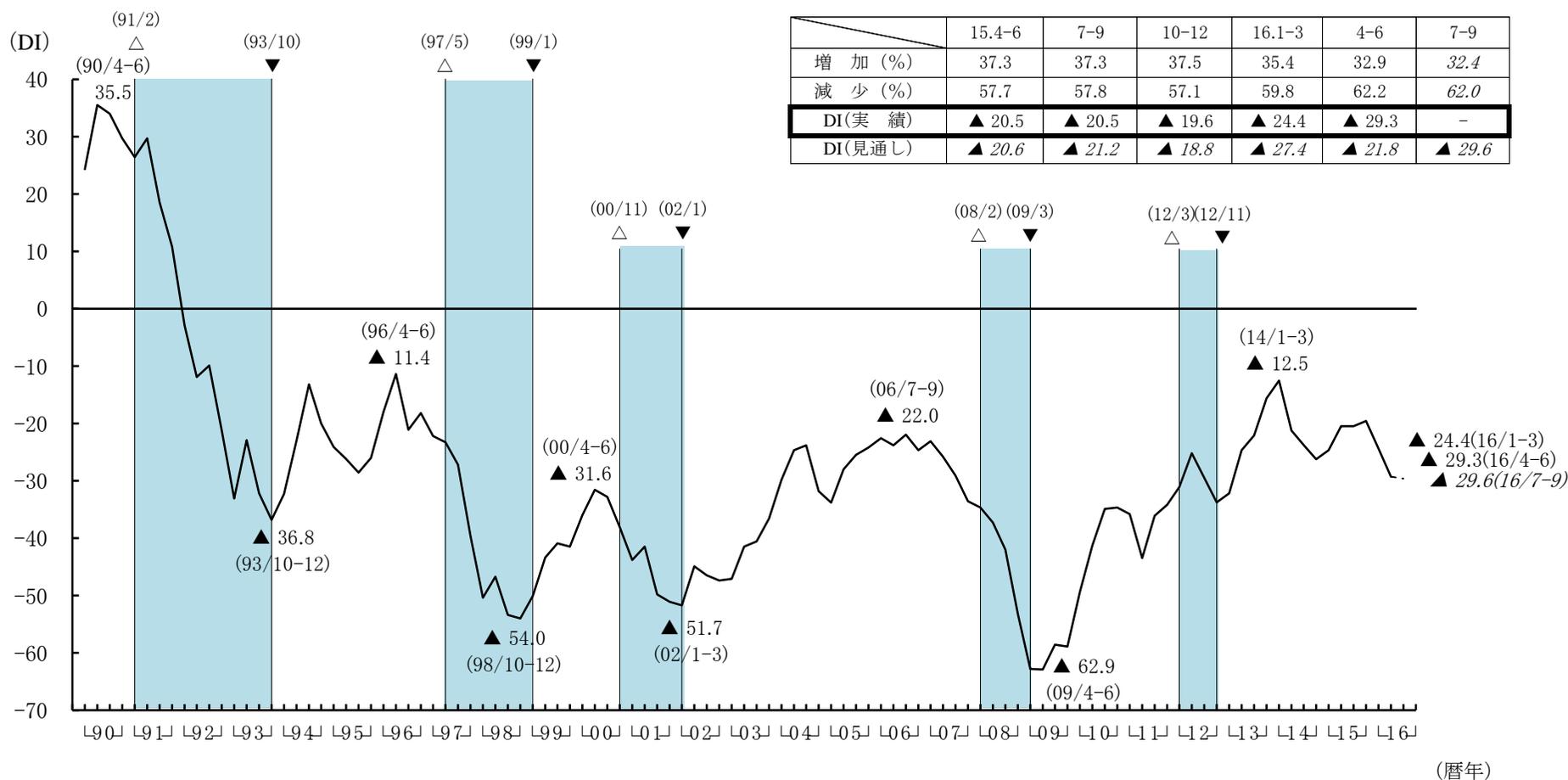


(注) 各地域の値は、上段が1年前、下段が今期を示している。

## 2 売上

- 売上DI(全業種計)は、前回調査に比べてマイナス幅が4.9ポイント拡大し、▲29.3となった。
- 来期は、マイナス幅が拡大する見通しとなっている。

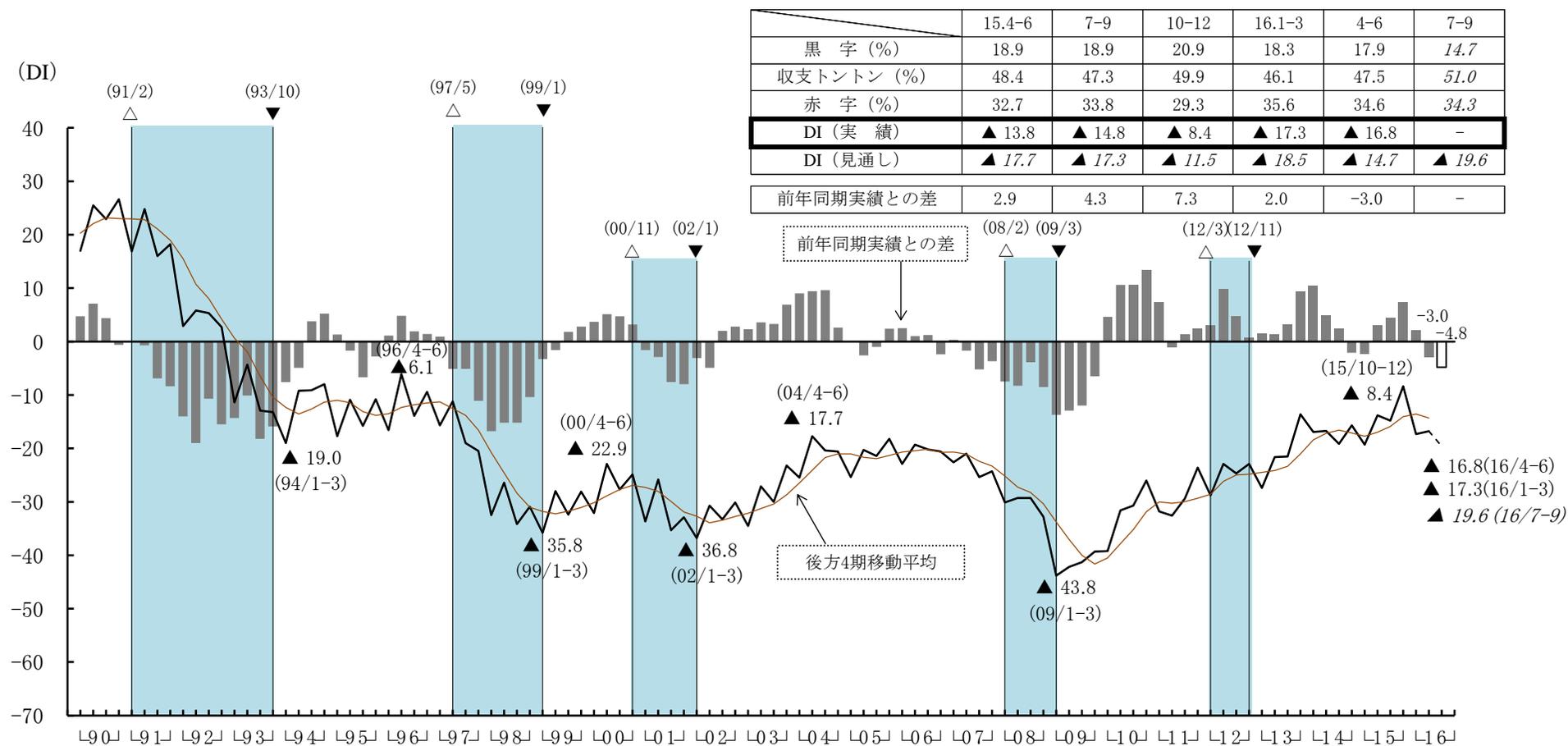
図－4 売上DIの推移（全業種計）



### 3 採 算

- 採算DI(全業種計)は、前回調査に比べてマイナス幅が0.5ポイント縮小し、▲16.8となった。
- 来期は、マイナス幅が拡大する見通しとなっている。

図－5 採算DIの推移（全業種計）



(注) 1 DIは、「黒字」と回答した企業割合から「赤字」と回答した企業割合を差し引いた値。

(暦年)

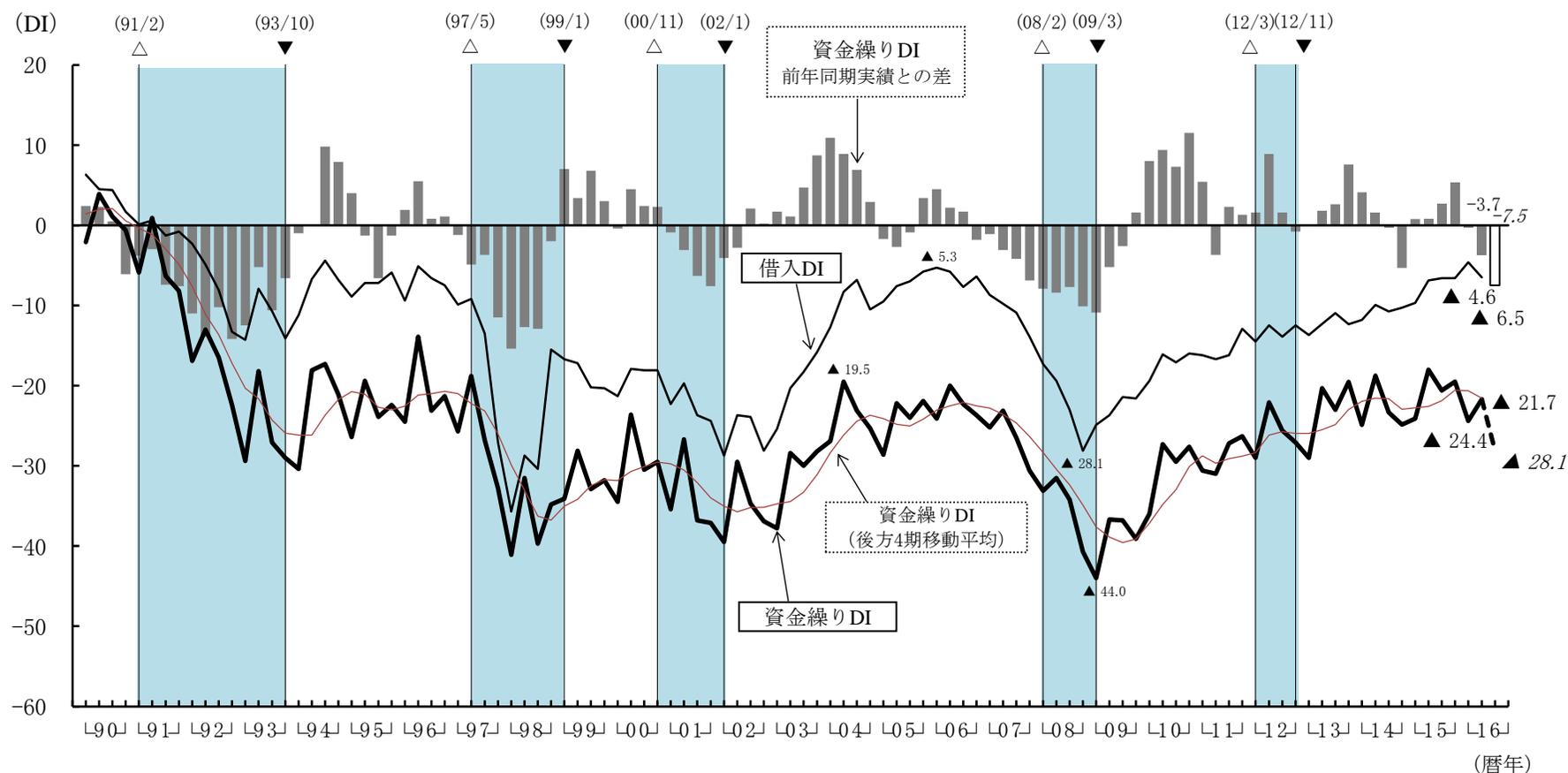
2 ——— は実績、----- は見通し。斜体は見通しの値を示している。

3 白抜き部分は見通しと前年同期実績との差。

## 4 資金繰り、借入

- 今期の資金繰りDI（全業種計）は、マイナス幅が2.7ポイント縮小し、▲21.7となった。来期は、マイナス幅が拡大する見通しとなっている。
- 民間金融機関からの借入状況（全業種計）をみると、今期の借入DIは、マイナス幅が1.9ポイント拡大し、▲6.5となった。

図－6 資金繰りDI、借入DIの推移（全業種計）

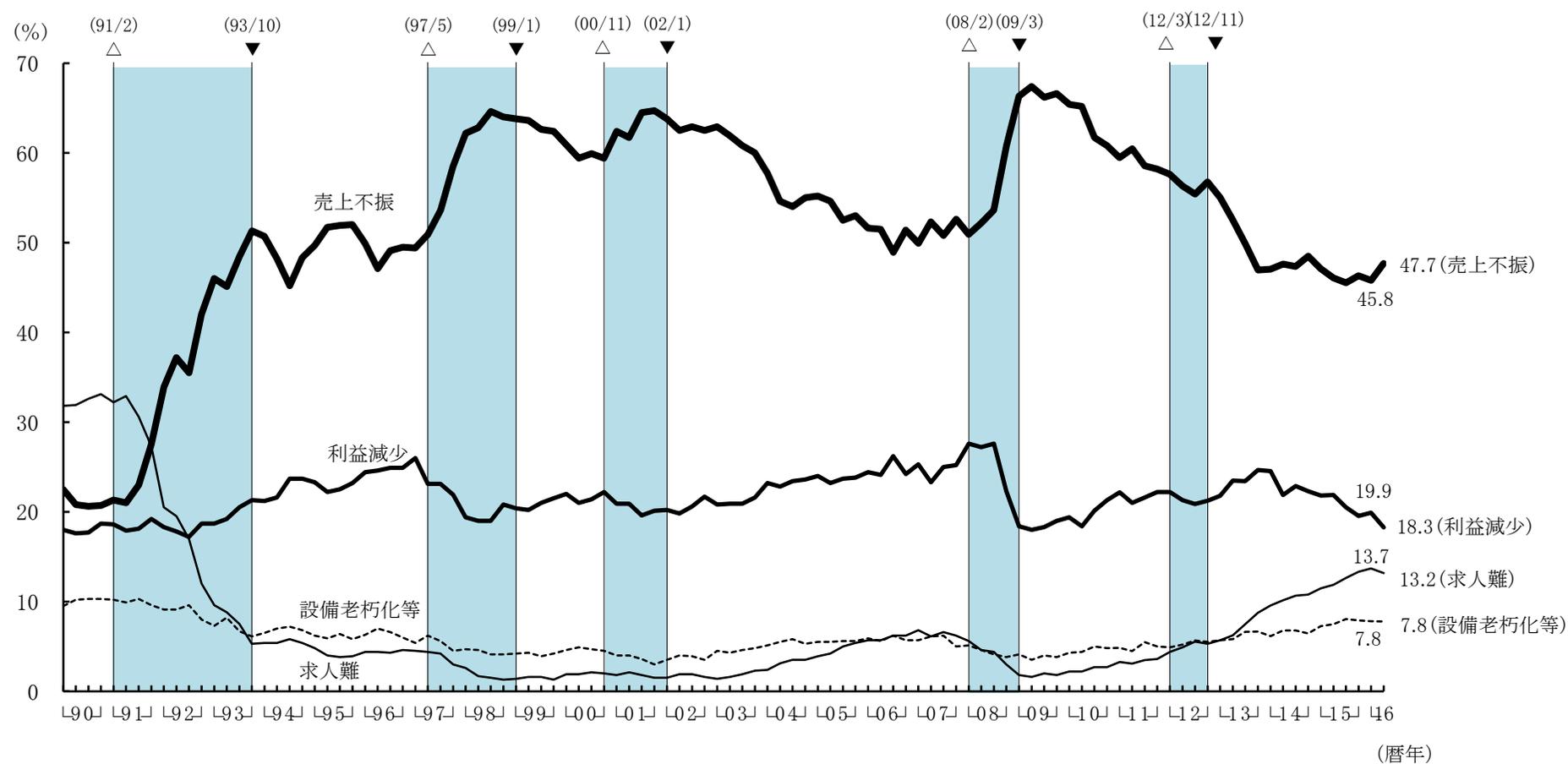


- (注) 1 資金繰りDIは、前期比で「好転」と回答した企業割合から「悪化」と回答した企業割合を差し引いた値。  
 2 借入DIは、前期比で「容易になった」と回答した企業割合から「難しくなった」と回答した企業割合を差し引いた値。  
 3 ——— は実績、----- は見通し。斜体は見通しの値を示している。  
 4 白抜き部分は見通しと前年同期実績との差。

## 5 経営上の問題点

○ 当面の経営上の問題点（全業種計）をみると、「売上不振」が47.7%と依然として最も多く、次いで、「利益減少」（18.3%）、「求人難」（13.2%）の順となっている。「求人難」は、14期ぶりに低下した。

図－7 経営上の問題点の推移（全業種計、上位4項目）

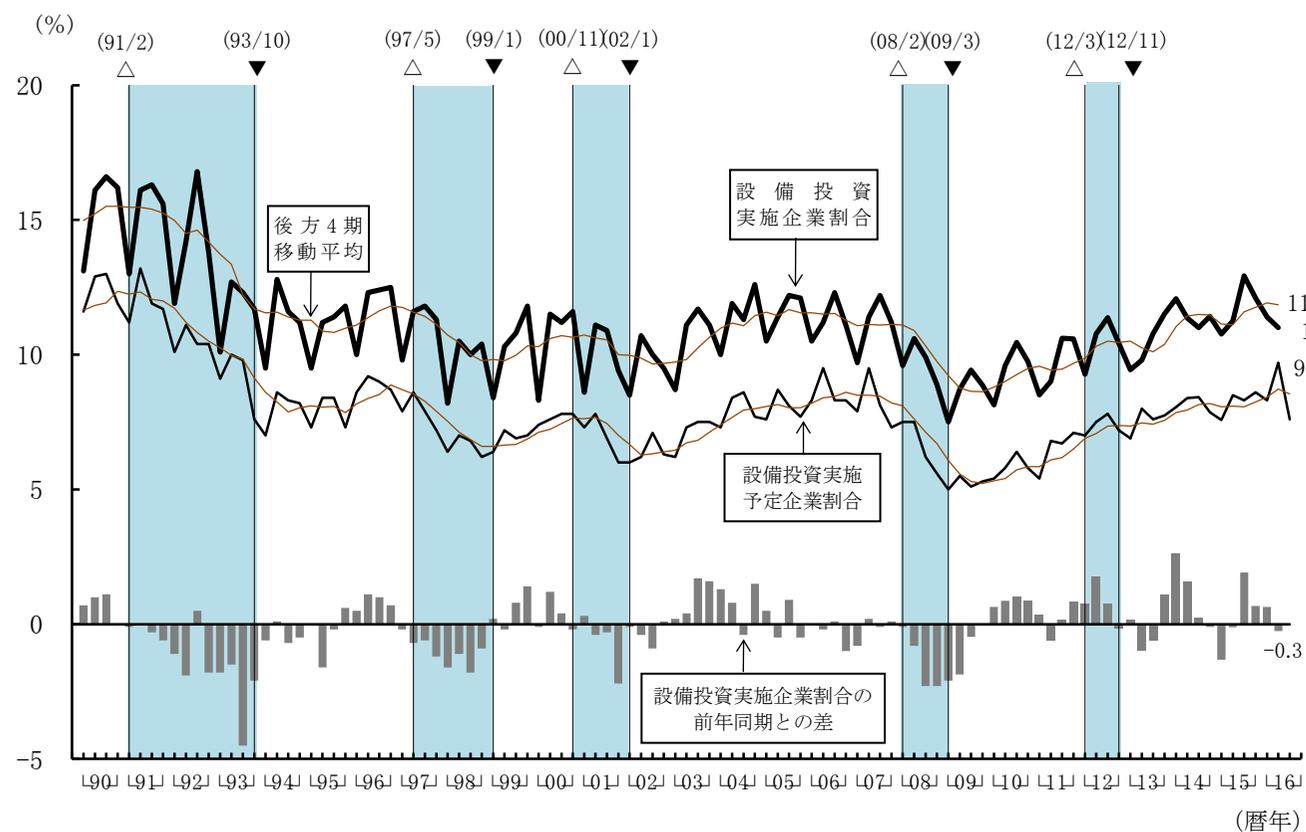


(注) 経営上の問題点（上位4項目）とは、当面の経営上の問題点について択一式で回答を求め、上位4位までを示したものの。

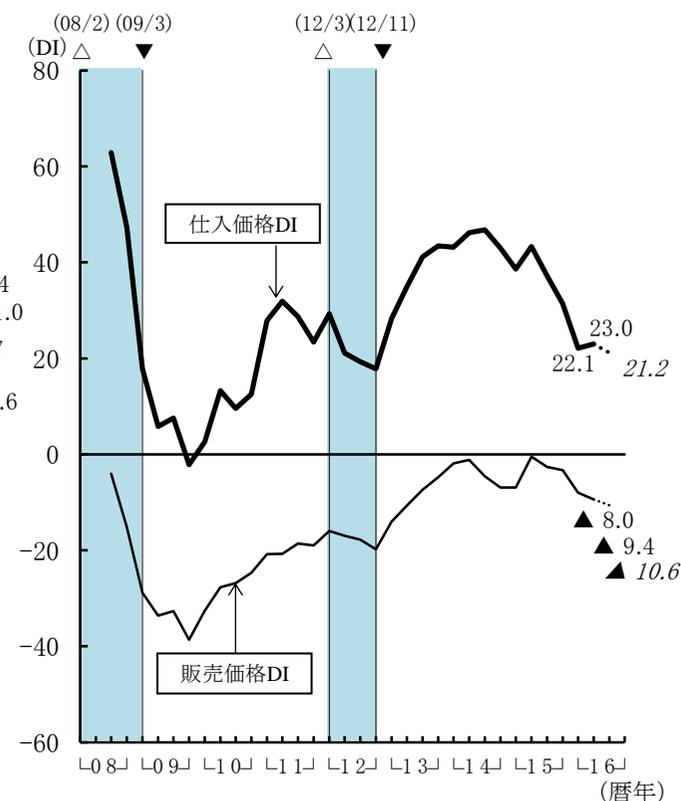
## 6 設備投資、価格動向

- 今期の設備投資実施企業割合（全業種計）は、0.4ポイント低下し、11.0%となった。
- 今期の販売価格DI（全業種計）は、マイナス幅が1.4ポイント拡大し、▲9.4となった。来期も、マイナス幅が拡大する見通しとなっている。
- 今期の仕入価格DI（全業種計）は、0.9ポイント上昇し、23.0となった。来期は、低下する見通しとなっている。

図－8 設備投資実施企業、実施予定企業割合の推移（全業種計）



図－9 販売価格DI、仕入価格DIの推移（全業種計）



- (注) 1 DIは、前年同期比で「上昇」と回答した企業割合から「低下」と回答した企業割合を差し引いた値。  
 2 ——— は実績、----- は見通し。斜体は見通しの値を示している。  
 3 2008年7～9月期から調査を実施。

# 中 小 企 業 編

(2016年4-6月期実績、7-9月期、および10-12月期見通し)

## 中小企業の景況は、 緩やかな回復基調のなか、弱い動きがみられる

### [概況]

- ・業況判断DIは、前期（2016年1-3月期）からマイナス幅が拡大し、▲4.9となった。低下は3期連続である。来期（2016年7-9月期）はマイナス幅が縮小して▲4.3になり、来々期（2016年10-12月期）は▲2.7になる見通しである。
- ・売上DIは低下し、▲3.1となった。来期は上昇して2.6になり、来々期は5.4になる見通しである。
- ・純益率DIは、マイナス幅が拡大し、▲2.5となった。来期はマイナス幅が拡大して▲4.1になり、来々期はマイナス幅が縮小して▲2.7になる見通しである。
- ・販売価格DIは、8期連続で低下し、▲4.8となった。来期以降は上昇する見通しである。
- ・仕入価格DIは、8期連続で低下し、9.0となった。来期以降は上昇する見通しである。
- ・資金繰りDI、短期借入難易DIは前期から上昇し、長期借入難易DIは低下した。

## [調査の実施要領]

調 査 時 点	2016年6月中旬
調 査 対 象	当公庫取引先（原則従業員20人以上） 13,620社
有 効 回 答 数	7,407 社 [回答率 54.4 %]

(注)2016年4月に発生した熊本地震の影響を考慮し、今期調査においては熊本県内に所在する企業を調査対象外とした。

### <業種構成>

	調 査 対 象	有 効 回 答 数		
製 造 業	5,706 社	3,256 社	(構成比	44.0 %)
鉱 業	27 社	11 社	( 同	0.1 %)
建 設 業	988 社	581 社	( 同	7.8 %)
運送業(除水運)	758 社	440 社	( 同	5.9 %)
水 運 業	151 社	86 社	( 同	1.2 %)
倉 庫 業	87 社	59 社	( 同	0.8 %)
情 報 通 信 業	267 社	121 社	( 同	1.6 %)
ガ ス 供 給 業	18 社	13 社	( 同	0.2 %)
不 動 産 業	888 社	417 社	( 同	5.6 %)
宿泊・飲食サービス業	542 社	266 社	( 同	3.6 %)
卸 売 業	1,788 社	943 社	( 同	12.7 %)
小 売 業	979 社	490 社	( 同	6.6 %)
サ ー ビ ス 業	1,421 社	724 社	( 同	9.8 %)

### (参 考)

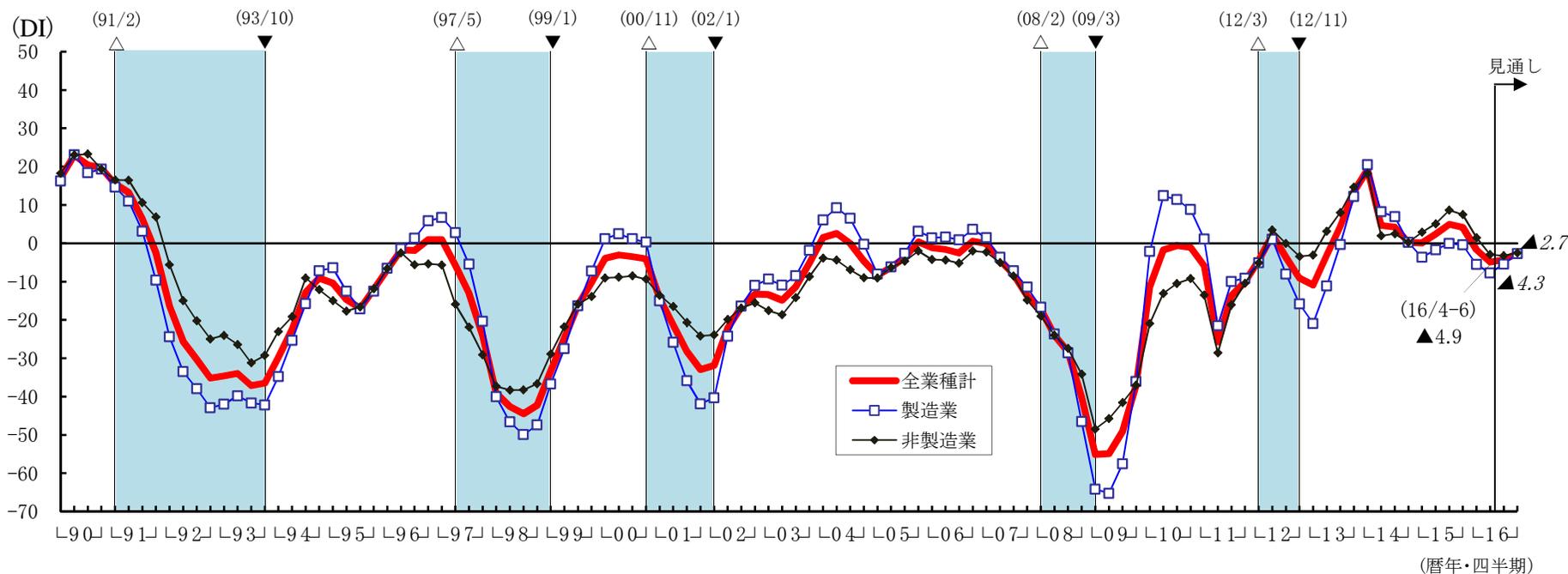
資本金	100 万 円 未 満	50 社	(構成比	0.7 %)
同	100 万 ～ 300 万 円 未 満	123 社	( 同	1.7 %)
同	300 万 ～ 1,000 万 円 未 満	610 社	( 同	8.2 %)
同	1,000 万 ～ 5,000 万 円 未 満	4,925 社	( 同	66.5 %)
同	5,000 万 円 ～ 1 億 円 未 満	1,320 社	( 同	17.8 %)
同	1 億 ～ 3 億 円 未 満	291 社	( 同	3.9 %)
同	3 億 円 以 上	88 社	( 同	1.2 %)

# 1 業況判断

- 今期（2016年4－6月期）の業況判断DIは、前期（2016年1－3月期）から3.2ポイントマイナス幅が拡大し、▲4.9となった。低下は3期連続である。
- 来期（2016年7－9月期）は▲4.3に、来々期（2016年10－12月期）は▲2.7にマイナス幅が縮小する見通しである。

図－1 業況判断DIの推移（季節調整値）

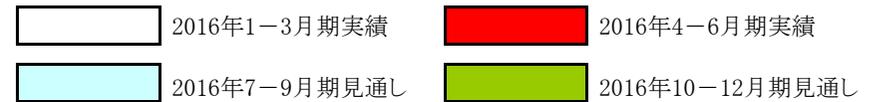
	2015/4-6	2015/7-9	2015/10-12	2016/1-3	2016/4-6 (前回見通し)	2016/7-9 (前回見通し)	2016/10-12
業況判断DI (季節調整値)	2.4	4.9	4.2	▲1.7	▲4.9 ( 0.6)	▲4.3 ( 5.0)	▲2.7
製 造 業	▲1.7	0.0	▲0.4	▲5.5	▲7.7 (▲0.7)	▲5.4 ( 4.6)	▲2.7
非 製 造 業	5.1	8.7	7.5	1.5	▲2.9 ( 1.5)	▲3.3 ( 4.9)	▲2.5



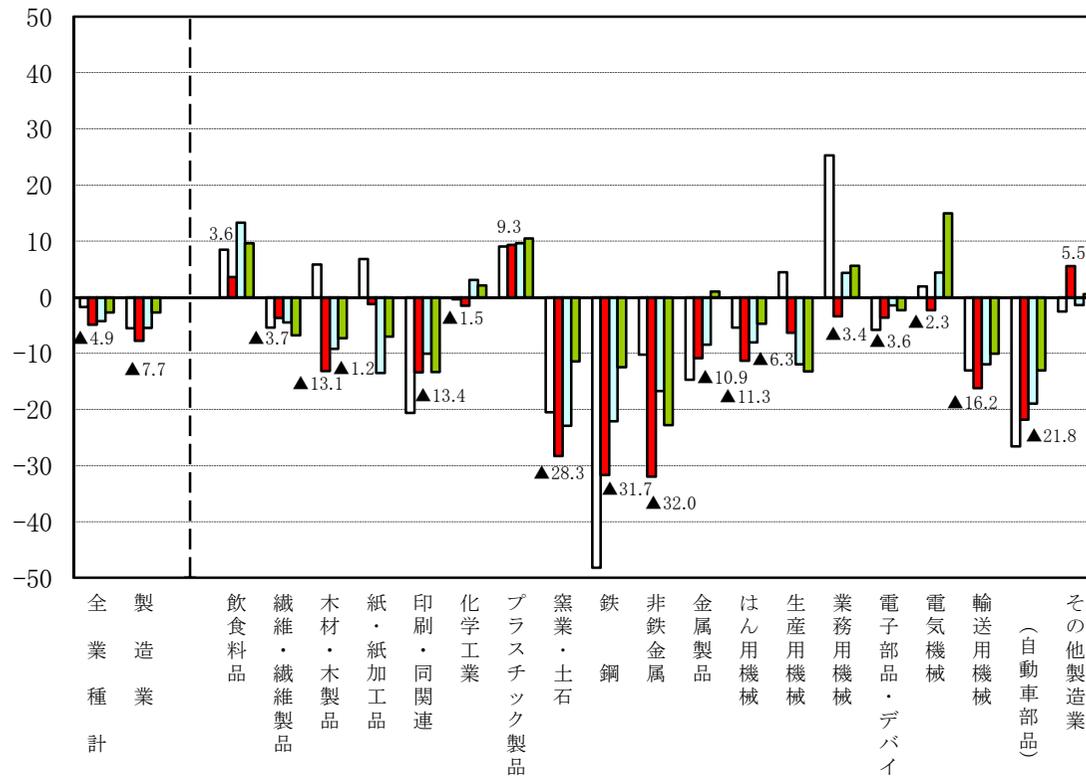
- (注) 1 業況判断DIは、調査対象企業の業況が前年同期比で「好転」と回答した企業割合から「悪化」と回答した企業割合を差し引いた値（季節調整値）。  
 2 図中の数字は全業種計の値。斜体は見通しの値を示す。  
 3 今期調査において季節調整値の改定を実施した（以下同じ）。

- 今期の業況判断DIを業種別にみると、製造業は、窯業・土石、非鉄金属等の素材業種に加え、はん用機械等の設備関連業種や輸送用機械が低下した。来期以降は多くの業種でマイナス幅が縮小する見通しである。
- 非製造業は、卸売業、小売業等のマイナスが続く一方、情報通信業や宿泊・飲食サービス業でプラス幅が縮小した。来期以降は、非製造業全体ではほぼ横ばいとなる見通しである。

図－２ 業種別業況判断DIの推移（季節調整値）

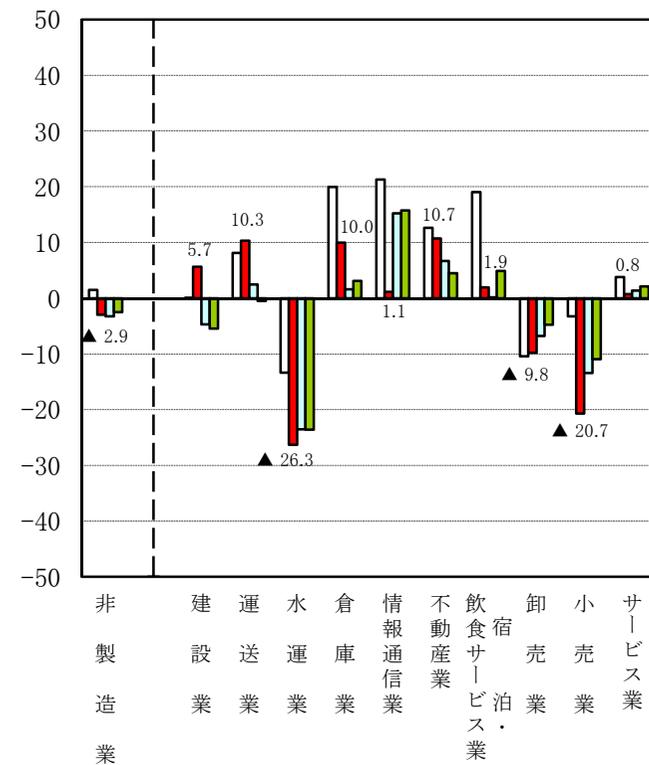


－製造業－  
(DI)



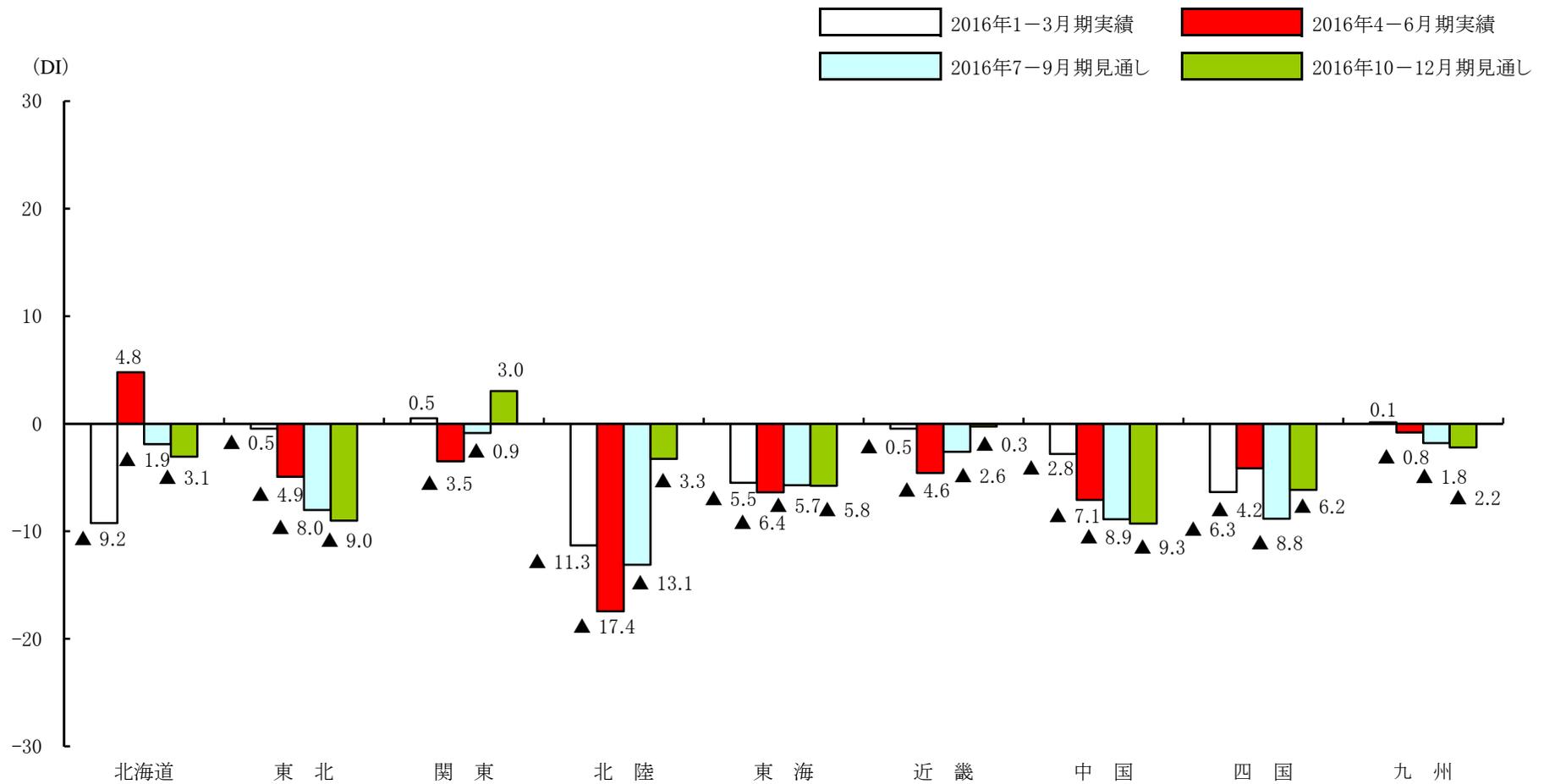
(注) 図中の数字は、今期の実績値を示す。

－非製造業－  
(DI)



- 業況判断DIを地域別にみると、東北、関東、北陸、東海、近畿、中国、四国、九州の8地域でマイナス水準となっている。
- 来期は関東、北陸、東海、近畿の4地域でマイナス幅が縮小する見通しである。

図－3 地域別業況判断DI（季節調整値）

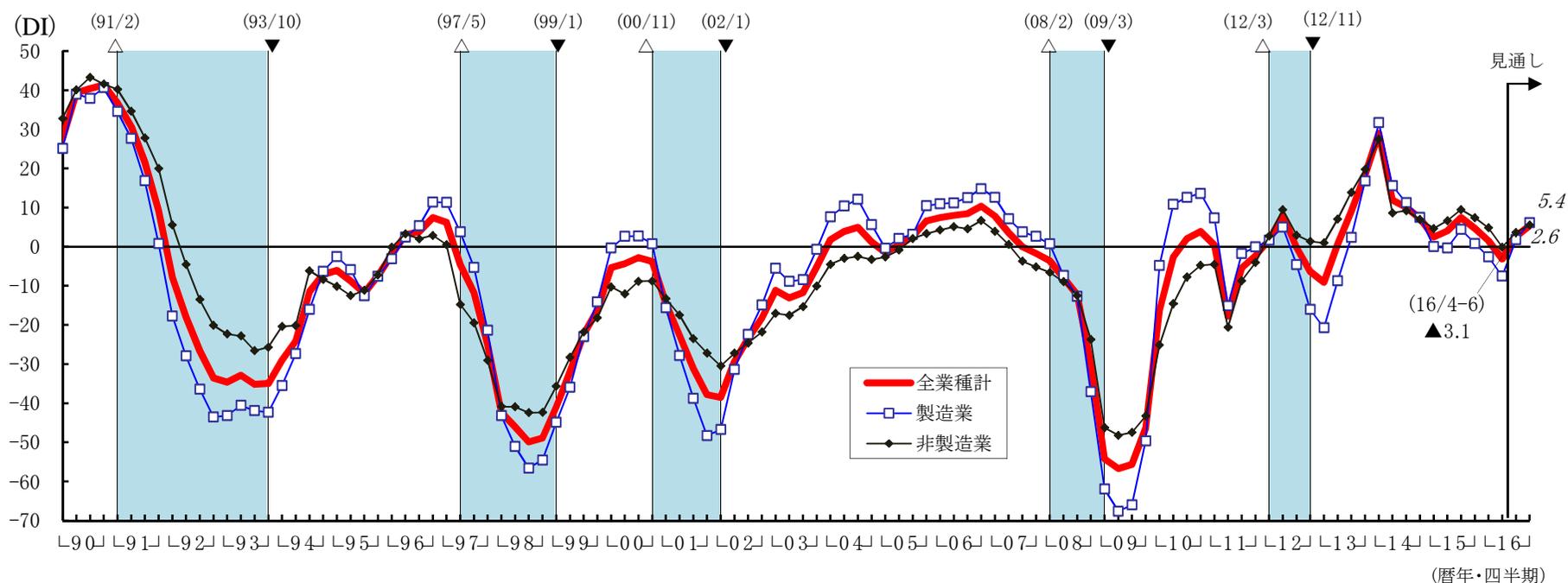


## 2 売上

- 今期の売上DIは、前期から4.6ポイント低下し、▲3.1となった。低下は3期連続である。
- 来期は上昇して2.6になり、来々期は5.4になる見通しである。

図ー4 売上DIの推移（季節調整値）

	2015/4-6	2015/7-9	2015/10-12	2016/1-3	2016/4-6 (前回見通し)	2016/7-9 (前回見通し)	2016/10-12
売上DI (季節調整値)	4.0	7.4	4.6	1.5	▲ 3.1 ( 6.7)	2.6 ( 11.0)	5.4
製 造 業	▲ 0.3	4.4	0.8	▲ 2.6	▲ 7.5 ( 5.1)	1.8 ( 10.6)	6.1
非 製 造 業	6.6	9.5	7.4	4.8	▲ 0.1 ( 7.9)	3.7 ( 11.2)	5.5



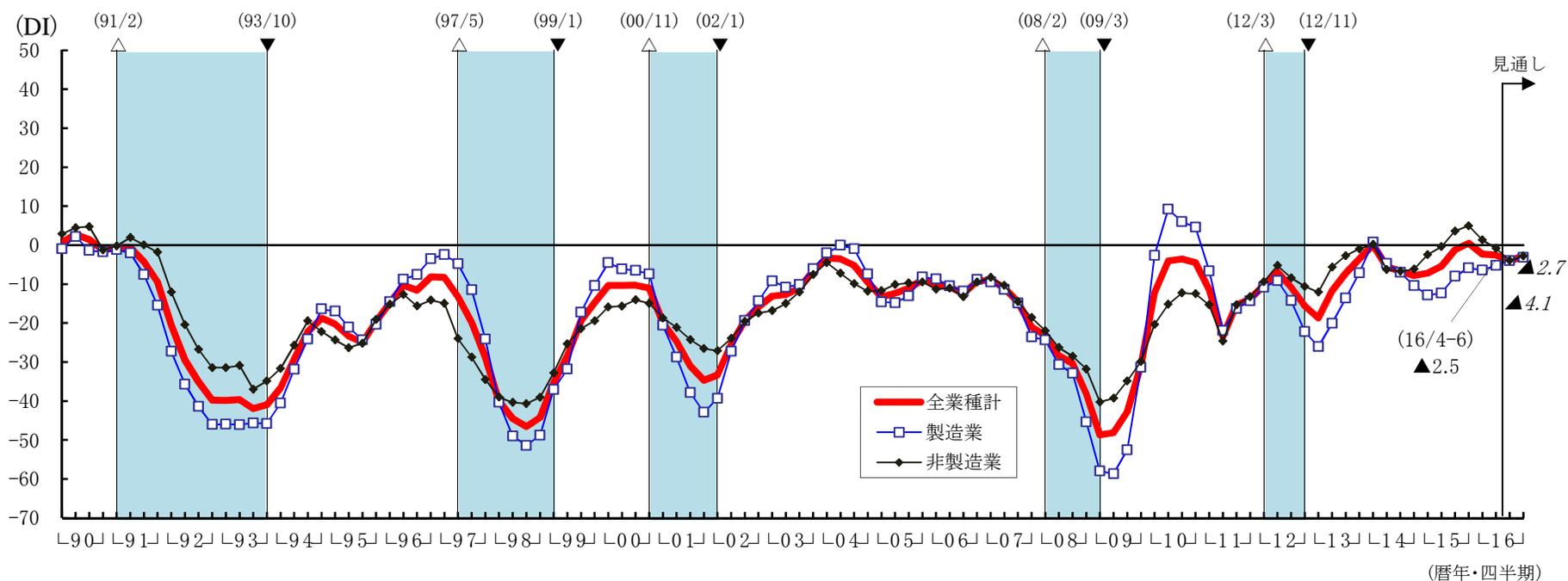
- (注) 1 売上DIは、前年同期比で「増加」企業割合－「減少」企業割合（季節調整値）。  
 2 図中の数字は全業種計の値。斜体は見通しの値を示す。

### 3 利益

- 今期の純益率DIは、前期から0.1ポイントマイナス幅が拡大し、▲2.5となった。低下は2期連続である。
- 来期は▲4.1にマイナス幅が拡大し、来々期は▲2.7にマイナス幅が縮小する見通しである。

図－5 純益率DIの推移（季節調整値）

	2015/4-6	2015/7-9	2015/10-12	2016/1-3	2016/4-6 (前回見通し)	2016/7-9 (前回見通し)	2016/10-12
純益率DI (季節調整値)	▲ 5.4	▲ 1.2	0.5	▲ 2.4	▲ 2.5 (▲ 2.4)	▲ 4.1 ( 0.2)	▲ 2.7
製 造 業	▲ 12.3	▲ 8.0	▲ 5.8	▲ 6.5	▲ 5.2 (▲ 4.2)	▲ 4.0 (▲ 0.3)	▲ 3.2
非 製 造 業	▲ 0.4	3.6	5.0	1.3	▲ 0.8 (▲ 0.7)	▲ 4.0 ( 0.9)	▲ 2.8



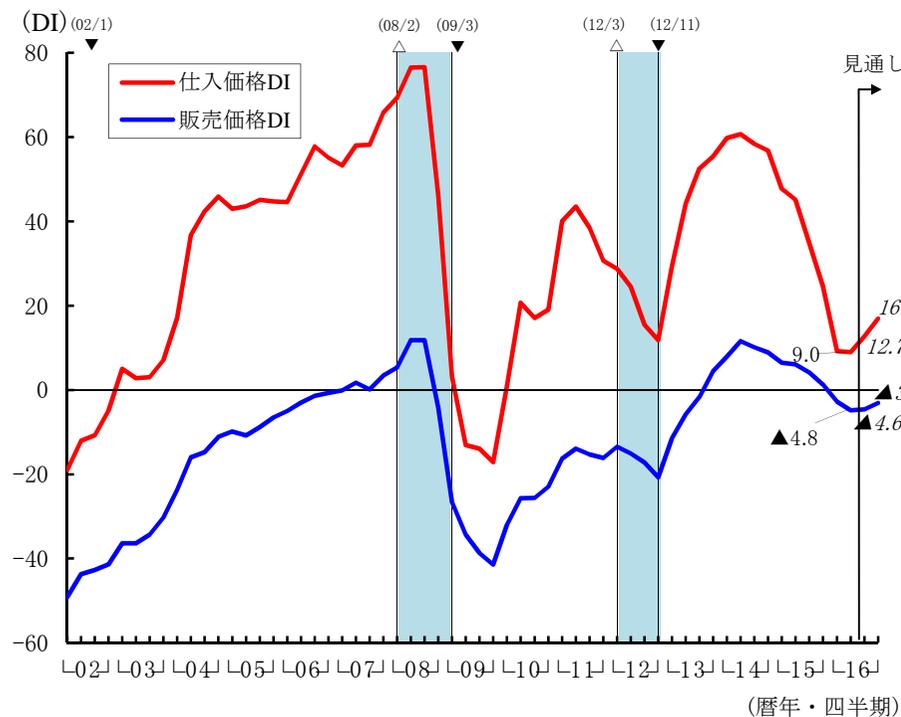
- (注) 1 純益率DIは、前年同期比で「上昇」企業割合－「低下」企業割合（季節調整値）。  
 2 図中の数字は全業種計の値。斜体は見通しの値を示す。

## 4 価格、金融関連

- 今期の販売価格DIは、2.0ポイント低下し▲4.8となった。仕入価格DIは、0.2ポイント低下し9.0となった。低下はいずれも8期連続である。来期以降は販売価格DI、仕入価格DIともに上昇の見通しである。
- 今期の資金繰りDI、短期借入難易DIは前期から上昇、長期借入難易DIは低下した。

図－6 価格関連DIの推移（原数値）

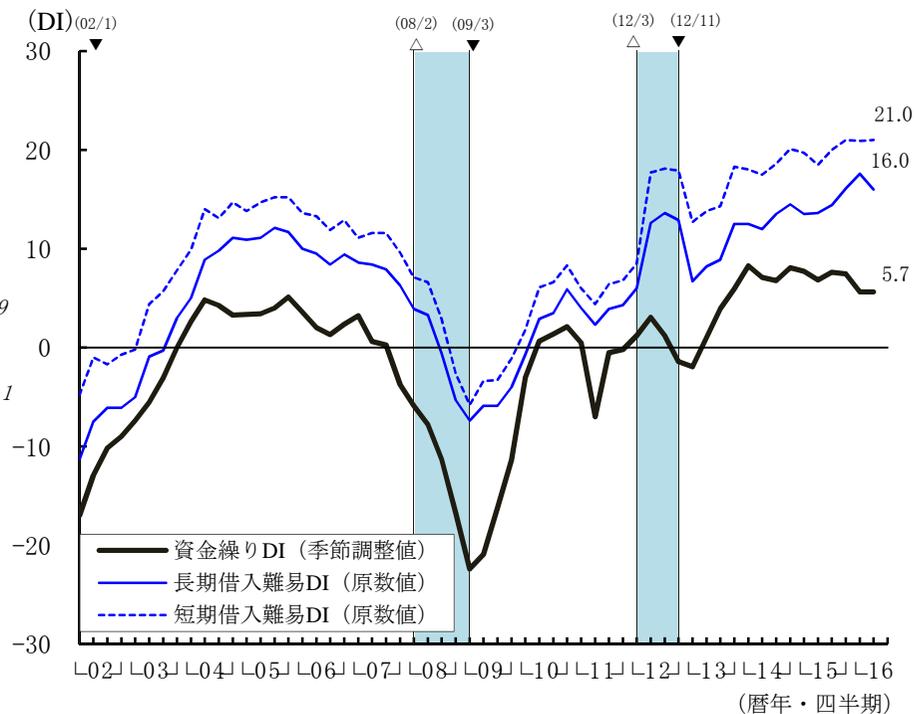
	2015/4-6	2015/7-9	2015/10-12	2016/1-3	2016/4-6	2016/7-9	2016/10-12
販売価格DI	6.1	4.2	1.3	▲2.8	▲4.8	▲4.6	▲3.1
仕入価格DI	45.1	34.9	24.6	9.2	9.0	12.7	16.9



- (注) 1 仕入価格DI、販売価格DIともに前年同期比で「上昇」企業割合－「低下」企業割合（原数値）。  
2 図中の数字は今期実績および見通し（斜体）の値を示す。

図－7 金融関連DIの推移

	2015/4-6	2015/7-9	2015/10-12	2016/1-3	2016/4-6
資金繰りDI（季節調整値）	6.8	7.6	7.4	5.6	5.7
長期借入難易DI（原数値）	13.6	14.4	16.1	17.6	16.0
短期借入難易DI（原数値）	18.5	20.0	21.0	20.9	21.0



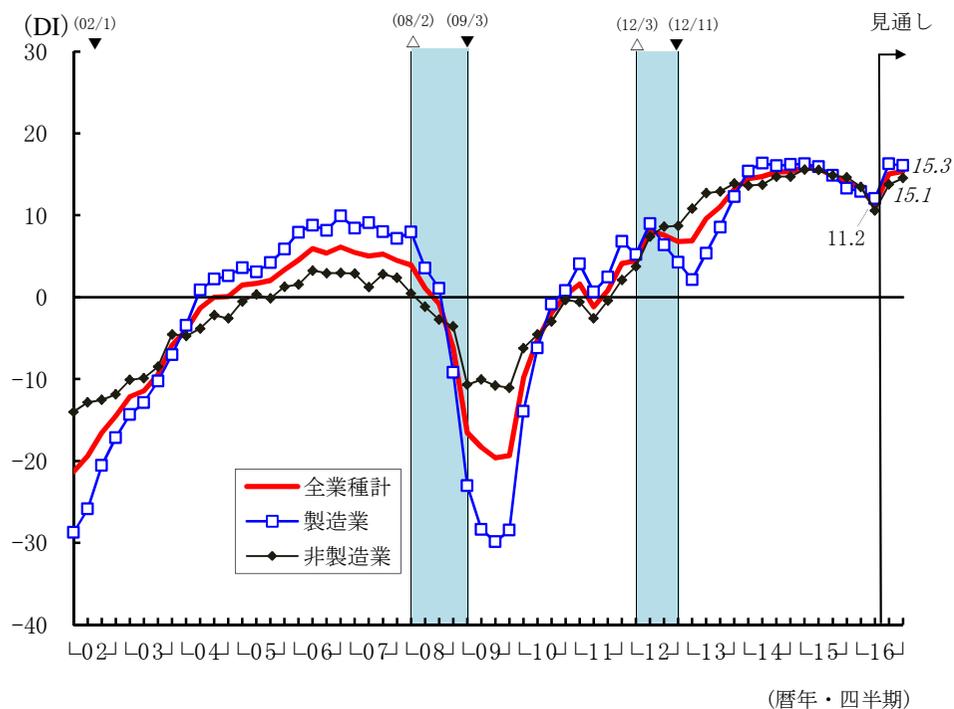
- (注) 1 資金繰りDIは、前年同期比で「好転」企業割合－「悪化」企業割合（季節調整値）。  
2 借入難易DIは、前年同期比で「容易」企業割合－「困難」企業割合（原数値）。  
3 図中の数字は今期の実績値を示す。

## 5 雇用、設備

- 今期の従業員DIは、前期から低下し11.2となった。来期以降は上昇する見通しである。
- 今期の設備投資実施企業割合は、38.4%となった。

図－8 従業員DIの推移（季節調整値）

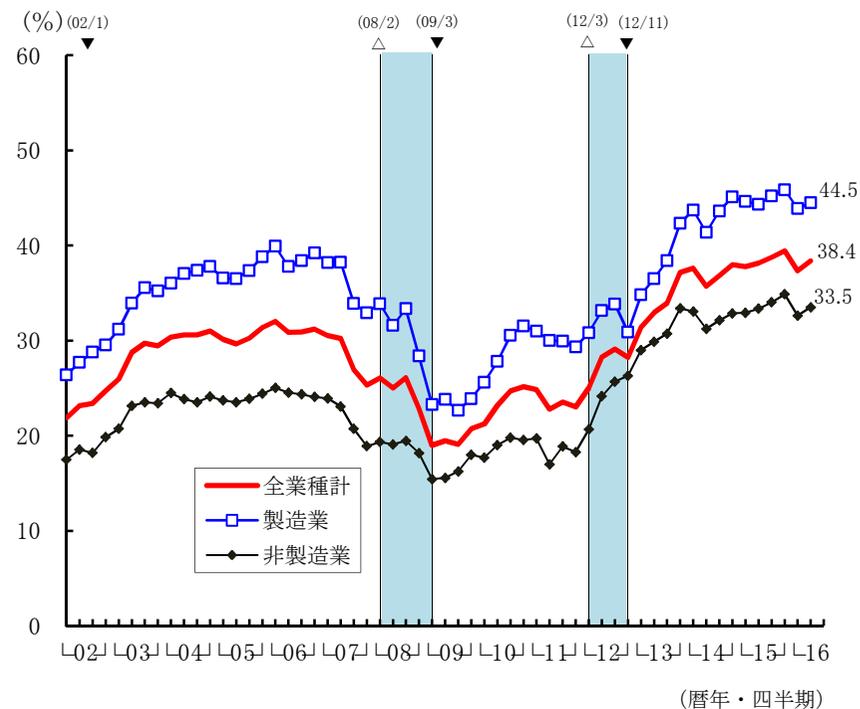
	2015/4-6	2015/7-9	2015/10-12	2016/1-3	2016/4-6	2016/7-9	2016/10-12
全業種計	15.7	14.8	14.1	13.2	11.2	15.1	15.3
製造業	15.9	14.9	13.3	12.9	12.0	16.3	16.1
非製造業	15.5	14.9	14.6	13.5	10.6	13.8	14.5



(注) 1 従業員DIは、前年同期比で「増加」企業割合－「減少」企業割合（季節調整値）。  
2 図中の数字は全業種計の値。斜体は見通しの値を示す。

図－9 設備投資実施企業割合の推移（季節調整値）

	2015/4-6	2015/7-9	2015/10-12	2016/1-3	2016/4-6
全業種計	38.2	38.8	39.4	37.3	38.4
製造業	44.3	45.2	45.9	43.9	44.5
非製造業	33.4	34.0	34.9	32.6	33.5



(注) 図中の数字は今期の実績値を示す。

## 6 経営上の問題点

- 当面の経営上の問題点をみると、「売上・受注の停滞、減少」が42.2%と最も多く、次いで、「求人難」(23.8%)、「製品安や値下げの要請」(5.5%)となっている。
- 前回調査と比べると、「売上・受注の停滞、減少」は1.9ポイント上昇した一方、「求人難」は2.5ポイント低下した。

図-10 経営上の問題点の推移

